



第 2630 地区

写真 修道院



第 47 期会長テーマ
みんなでつくる奉仕の心

例会日 毎週木曜日
事務局 多治見市新町 1-23
産業文化センター 4F
TEL 0572-25-5100 FAX 0572-25-5101
E-mail n-rc@joy.ocn.ne.jp
HP http://tajiminishi.jimdo.com/
会長 各務和宏 幹事 山田正史

第 2241 例会 2012 年 7 月 5 日 (木)

本日のプログラム

点 鐘
国歌斉唱 君が代
ロータリーソング 奉仕の理想
四つのテスト

会長所信表明
出席・スマイル報告
委員会報告
理事会報告
幹事報告
執行部挨拶 幹事・副会長・副幹事

点 鐘

- ・ 地区社会奉仕委員会より
社会奉仕活動に関するアンケート
- ・ 地区世界社会奉仕活動補助金申請の案内
- ・ 叙勲・褒章受章祝賀会の案内
8 月 1 日 (水) 11:30 文化会館

[他クラブ例会変更のお知らせ](#)

- ・ 土岐 RC → 7 月 10 日 (火) 点鐘 12:30
移動例会 「千代田」・
- ・ 恵那 RC → 7 月 11 日 (水) 点鐘 7:30
交通安全街頭指導
恵那市各所

[最終例会の記録](#)

◆ 出席報告 出席免除者 4 名 出席者 2 名

出席者	欠席者	出席率
31 名	5 名	86.11%

◆ スマイル報告

投函者 26 名 金額 38,000 円

46 期スマイル合計 1,020,200 円

皆様のご協力ありがとうございました

[着信書類](#)

- ・ 7 月のロータリーレイト 1 ドル 80 円
- ・ 地区国際奉仕委員会より
国際奉仕活動に関するアンケート





会長挨拶

第47期会長 各務和宏

歴史と伝統ある第47期多治見西ロータリークラブの会長を仰せつかり、大変名誉なことと感じるとともに、責任の重要性も同時に感じています。

私の父もかつて多治見西ロータリークラブの会長を務めており、親子二代でこの重要な役目を務めさせていただくことを嬉しく思っており、皆様と一緒にこの一年を頑張っていきたいと思っております。今年度のRI会長は30年ぶりに日本人の田中作次氏が務めることとなりそのテーマは「奉仕を通じて平和を」とされました。次に2630地区の2012～2013年度地区活動方針を村橋元ガバナーは「不易流行」と決められました。不易とは不変で大切に守っていかなければならないということを意味しております。流行とは時代と共に変えていかなければならないということの意味しています。このことは、我々ロータリアンはロータリーの綱領に従い「超私の奉仕」「4つのテスト」「職業奉仕等5大奉仕」を迫及しなければなりません、時代に合ったロータリーに変化、進化しなければならないことを意味しています。これらのことを考慮しまして、私の本年度会長テーマを「みんなで作る奉仕の心」とさせて頂きました。今現在の多治見西ロータリークラブの家庭的な雰囲気を大切にしながら、CLPなどこれから取り組んでいかなければならないテーマを卓話の時間を使って皆さんと共に考え理解を深め徐々に多治見西ロータリークラブが時代に合ったロータリーに変化するように皆さんのお力を借りてこの1年間がんばっていきますので、よろしくお願い致します。



7月の例会予定

5日	47期第1回理事会 会長所信表明 執行部挨拶
12日	委員長挨拶 年間行事発表 46期決算報告 47期予算報告
19日	卓話 伊藤義弘君 「中国に進出してみて」
26日	お祝い例会

- 7日(土) R財団研修セミナー
岐阜都ホテル 会長・委員長(谷口津富)
- 8日(日) RAC会長幹事・地区運営委員会
養正公民館 10:00～ 委員長(大澤大二)
- 12(木) 東濃分区会長幹事事務局連絡会議
中津川商工会議所 17:00～
- 13日(金) RAC第一例会
総合福祉センター 20:00～21:00
会長・委員長(大澤大二)
- 19日(木) I. G. M. (Aグループ)
「松正」 18:00
リーダー 柘植途始江 サブリーダー 松本昇



6月のお誕生日



第46期出席表彰 皆出席者
服部賢治君 飯田利夫君

会員基盤増強維持部門セミナーに参加して

会員増強委員会 委員長 関谷泰久

去る、6月17日（日）、岐阜都ホテルにて、国際ロータリー第2630地区 2012-2013年度 会員基盤増強維持研修セミナーが開かれました。参加義務者は、各クラブの「会員基盤増強維持委員会委員長と新入会員」と言うことでしたが、多治見西クラブは新入会員がいないため、1人で参加して来ました。

10:30からの受付開始で、昼食後、12:00点鐘で始まり、16:30点鐘で終わる、4時間半の会議でした。

最初に、特別出席者紹介、石井ガバナー挨拶、桑月次期地区研修委員長挨拶があり、その後、村橋ガバナーエレクトが会員増強と維持について話されました。その中で、世界のロータリアンは、1990年と比較して、10万人（約一割）増加しているが、2630地区は、1998年から14年間で、2000人も減少して、約3000人になってしまっている現状などを話され、**会長・幹事・会員増強委員会と全会員が一体**となって、増強に努めて欲しい旨話されました。目標は、「**純増5%**」です。

その後、RI本部会員維持増強委員会の市川委員の基調講演がありました。とても、84歳とは思えない元気さで、東京銀座ロータリークラブの現役メンバーです。増強とともに、維持の重要性も訴えられました。また、若い人を入れる、女性の力を活かすことなども話されました。10分の休憩の後、4~5クラブごとの、小グループに分かれて、テーブルディスカッションを、約1時間行いました。なぜか、頂いた資料の袋に、「**テーブルリーダーをお願いします**」と書いてあり、進行役を勤めることとなりました。テーブルのメンバーは、多治見クラブの神谷さんと加藤さん、リバーサイドクラブの柴田さんと中村さん、土岐中央クラブの2名と私を加えた、7名でした。皆さんの意見をうまく引き出せるか、非常に心配でしたが、さすが話し上手

のメンバーです。進行役というよりも、タイムキーパー的な役割で、皆さんの発言をどこでストップさせるか、時計を見ながらの進行役でした。私の発言がほとんど出来ないくらいでした。壇上に上がり、グループを代表しての発表役は、新入会員にということで、一番若いリバーサイドクラブの中村さんをお願いいたしました。200名近い会員の前での発表でしたが、上手にまとめていただきました。

宿題として、本年度会員増強・維持のための戦略と、具体策（3個）を提出するよう（期限が過ぎてます）に言われています。皆さんの、お知恵をお貸し下さい。宜しくお願い致します。

第46期最終例会 平成24年6月21日 於：グランドティアラ



ポール・ハリス著の「ロータリーへの道」の原文は 300 頁を越す長編です。その一部をウィークリーの余白が出来た場合連載してまいります。御愛読下さい。〔会報委員会〕

最初のロータリー・クラブ

シカゴに戻って見ると、相変わらず屈辱に甘んじなければなりませんでしたが、それにもめげず私は元気一杯でした。平日にはがっかりすることがあっても、よいことがひとつありました。それは仕事が忙しくて、自分の事を考える暇が無かったことです。然し日曜祭日に寂しく身を持って余しました。日曜の朝には下町の教会に行けば気もまぎれましたが、午後はずっと一人ぼっちになりました。そして故郷ニューイングランドの谷間の緑や優しい旧友の声を思い出していました。市内の公演を散歩しても、心は満たされません。公園は人工的で、散歩している何千という人の中に、一人として顔見知りの人はいないのです。日曜の午後の市内の公園程、寂しい気持ちになる所はありません。知らない人ばかり集まっている所に居ると、無限の大地や大海原の中に居るよりも寂しくなるものです。どんなに有名な楽団の音楽を聞いても、気分は晴れません。そして徒に少年時代を過ごした、鉄橋のたもとの水遊び場や、その他の神聖な場所を思い出しました。たまには、友達と丘や山を歩き回った光景を脳裏に浮かべることがもありました。シカゴの公園の中には、故郷の谷間を思い出させるような所も有りますが、人が沢山来るので、余り休息は取れません。日曜に遠出して郊外の田舎へ行ったこともありましたが、落ち着いた気分にはなれませんでした。或る日、ミシガン湖横断の船遊びに参加して浩然の気を養いました。然し、船は大人や子供で満員で、開放感を味わうことはできませんでした。(つづく)



加藤史朗さんを偲んで

古庄五生

史朗さんの葬送の帰途、荒川、関谷ご両氏が私の家へ寄ってくれました。

親友を送った空しさ、寂しさを埋めるべく、又歩けぬ為、会葬出来なかった私の残念さを柔らげる為だったのでしょう。

故人を偲ぶ会の様子を聞きながら、私は別のことを考えて居ました。この三人に史朗さんを加えて四人。「魯山」「はせ川寿司」で軽く一ぱいやれたらどんなにいいだろうなあという思いでした。

「歴史も人生も逆戻りは出来ない」

これ程長年月、ご苦労なさり、その足跡にきれいな、小さな花を咲かせて下さった史朗さん夫婦に何を望むことがございましょう。

本当に大変でしたね。

ありがとうございますと申しあげるのみです。

ロータリーの地区大会もフィナーレ近く羽田健太郎さんと赤木りえさんのトークショウが済んで、多治見少年少女合唱団が思い思いの服装で、あちこちから登場して悲しい歌を歌いながら又散って行く。満場シーンとなって釘付けで、中には目頭をハンカチで押さえる人も・・・。

私は全国から来た何組かのガバナー夫婦と、史朗さんと正面席に並んで座っていました。感動した周りの客人達がしきりとほめてくれましたが、その時史朗さんは「古庄ガバナーの力でしょう」と持ち上げてくれました。全国のあちこちに行っても当分はいい顔でした。

「心ふれ支えてくれた良き友よ」